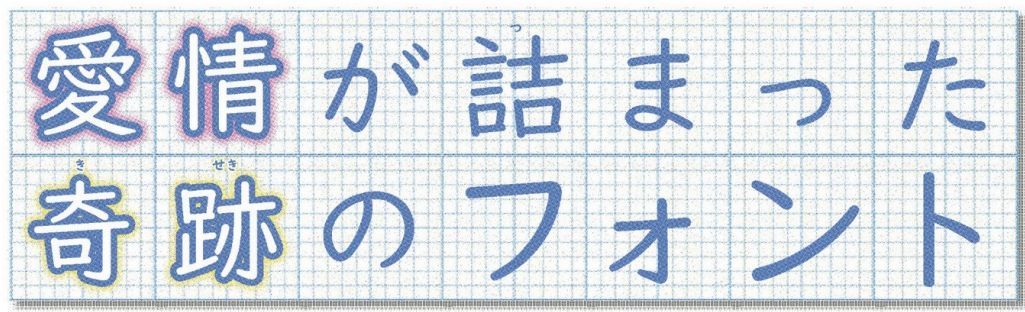


読み書き障がいでも見やすい書体を開発

私たちの日常は文字にあふれています。社会の多様性や国際化が進む昨今、「ユニバーサルデザイン（UD=より多くの人々が利用しやすいデザイン）」の書体制作に、真正面から向き合ったデザイナーがいます。高田裕美さん。デ

イイレクシア（発達性読み書き障がい）や弱視の人にも読みやすい「UDデジタル教科書体」を生み出しました。ですが開発までの道のりは、平たんではありません。※この紙面の文字も「UDデジタル教科書体」です。



書体デザイナー 高田裕美さん



たかた・ゆみ 女子美術大学短期大学グラフィックデザイン科卒業後、ピットマップフォントの草分けであるタイプバンクに入社。同社での32年間の書体デザイナーとしての経験を生かし、2017年からモリサワにて教育現場における書体の重要性や役割の普及に尽力。教育現場に割とUDフォントを活用した教材配信、セミナーやワークショップ、執筆、取材など幅広く活動中。

「UDデジタル教科書体」にはどのような特徴がありますか。

健常者だけでなく、ディスレクシアや弱視の子にとっても、「見やすく、読みやすく、間違えにくく、伝わりやすいこと」を目指して設計しました。学校などで文字を教える際、筆の運びや「とめ、はね・はらい」などの特徴がある教科書体が使われます。でもその形状のために、かえって読みにくさを感じる子もいるのです。そのため、ストレスに感じる先の尖った部分や線の太さの強弱を抑えながらも、画数や運筆が分かりやすいようデザインしました。

子どもたちのために 労が絶えなかったと。 通常、開発期間は2、3年ですが、この書体には8年かかりました。エビデンス（科学的根拠）を集めたり、当事者や支援者の声を反映したりする必要があったからです。2000字ほどのサンプルができ、支援者の方に確認してもらったときのこと。「このままでは書体のお手本にはできない」との意見が出ました。「木」の「右はらい」で先端を丸くしたデザインが「はらい」に見えないというのです。直すとなると、「木」を含む文字、右はらいやしんのような文字を含む文字、そしてそのバランスも全部直さなければなりません。受けるべしか判断に迷いました。

開発のきっかけは？

2006年ごろに電車内のデジタル表示パネルに使用する書体を作ったという依頼があり、UDフォントの制作を始めました。その過程で一つの疑問が湧いたのです。「デザイナーの感性だけで作ったものを「ユニバーサルデザイン」と呼んでいいのか」と。そこで、ロビジジョン研究で有名な慶応義塾大学の中野泰志教授にアドバイスを頼み、視覚障がいの特別支援学校などへ同行させてもらうようになったのです。

これは「社会の穴」だ

「当事者の元に足を運んだのです。視覚障がいといっても、形

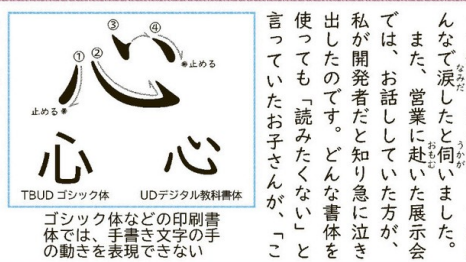
「木の右はらいの修正 指摘してくださいさうな方も 皆、子どもたちのためにいい 書体を作りたいとずっと協力 してくれました。だから中途半端 な書体では意味がない。私は 一晩考えて、修正を決断し、 他のおデザイナーたちにやり直 しをお願いしました。でも誰 一人、文句を言わず、引き受 けてくれました。皆が「何の ための書体か」という点を共 有してくれていたのです。本 当にありがたかった。

ある障がいの学習教室では、教材をこの書体に変えたい。 反響は大きかったそう です。ね。

がばんやり見える子や視野が 欠ける子、文字がねじれて見 える子などさまざま。拡大読 書器を使ったり、机に顔を大 っくと近づけたりして必死に読 み書きしていました。 ですが、拡大しても書体によ っては読みにくさが残りま す。教科書体は筆の運びは分 かるものの細く見えづらい 部分がある。明朝体も横線が 細くて文字の形を捉えられな い。ゴシック体は太くていい のですが、字によって画数や 形状が、学校で習う手書きの 形状と違ってしまふ。 ではどうしていたかとい うと、先生が既成のゴシック体 を一文字ずつ修正ペンなどで 教科書体風に修正して、文字 を教えていました。また当時 は、高額な拡大教科書を自費 で購入しなくてはならず、親 や支援者が教科書の文字を、大

ディスレクシアの見え方のイメージ

ことで、ディスレクシアの男 の子が、「これなら読める！ オレ、バカじゃなかったん だ！」と顔つきがパツと明る くなったそう。彼の悔し さを知っていたスタッフはみ んなって涙したと伺いました。 また、営業に赴いた展示会 では、お話ししていた方が、 私が開発者だと知り急に泣き 出したのです。どんな書体を使 っても「読みたくない」と 言っていたお子さんが、「こ



れなら読んでいいかも」と 言ってくれたというのです。 書体デザイナーとして32年 間、200種類ほどのフォント を開発してきましたが、ユニ ヴァーから泣くほど感謝され たことはありません。届くべ きところへ届いんだとい う、うれしさが込み上げまし た。さらに2017年、マイ クロソフトのWindows10に標 準搭載されたことで、知名度



が一気に広がり、全国の学校 現場で使われるようになった のです。 情熱と執念が実を結び ました。高田さんが思う多様 性の社会とは？

フォントについていえば、 UDデジタル教科書体があれば いい、ということではない と思っています。この書体が 読みにくい子もいます。かとい いて、選択肢を増やしたから どうぞ選んでください、で 終わっては、本当の多様性とは いえません。 障がいは、人ではなく、社 会にあると思う。困っている 人がいたら、それぞれの立場 できるところで寄り添って いく。小さなことでもいい んです。その中で選択肢が増 えて、みんなが生きやすくな る。その温かな流れが大切で はないでしょうか。その意味 では、多様性のある社会づく りに終わりはないですね。

「奇跡のフォント」 (時事通信社)